

令和5年度 後期授業評価アンケート 教科報告書

北海道網走南ヶ丘高等学校

1. 概要

本報告書は、令和5年11月に1,2年次を対象に実施した、授業改善を目的とする授業評価アンケートの結果に基づき、教員間で会議を行い、今後どのように活かすのかをまとめたものになります。

なお、詳細なアンケート結果については公表しかねますので、ご了承ください。

2. 各教科における共通項目

(1) 授業改善についてどのような課題が明らかになったか。

(2) アンケート結果を役立てることで、授業のどのような点を変えたり見直したりする予定なのか。

	Q. 授業改善についてどのような課題が明らかになったか
国語	ICTを使った授業だけではなく、実際に文章を手で書かせる授業で力を必要もあると感じた。1時間の中でどのように授業を組み立てるか、研修なども積極的に行っていくことも検討したい。
地歴公民	思考力や表現力等を育成するために、授業で自分の考えを書いてまとめる活動に時間を多く費やした。ただ、授業でのねらいに迫るための工夫を、もう少し研究する必要があったと考える。 観点別評価に関して、教員と生徒の間でのすれ違いを感じたため、評価の方法として授業での取り組み内容に工夫が必要だと感じた。
数学	苦手意識が強い科目であり、かつ年次が進むにつれてモチベーションに差ができる。特にモチベーション低下に歯止めをかける授業や、難題に対しても粘り強く理解しようとする姿勢を保てるよう授業で工夫をしていかななくてはならないと感じた。 また学習に向かう姿勢や努力が成績に反映されていないと実感する生徒が多く、学習方法に対しても授業でアプローチをする必要があると感じた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験がさらに求められている。 ・アクティビティが多いこととわかったと感じることが結びついていない点に課題がある。 ・わかったと感じることと模試等で得点できることが結びついていない点に課題がある。
保健体育	目標、授業の要点やポイントを詳細に伝え、生徒が主体的に取り組める環境づくりが必要と感じる。年次やクラスにより理解度に差があるのを感じた。生徒の授業への取り組みや頑張りが成績に反映されていないと感じる生徒がいるということが読み取れた。できるだけ評価に反映させることが必要と感じる。また、前期から引き続きグループワークを充実させる必要があると感じた。
家庭科	実習や実験を授業の半分程度実施することという指導要領を踏まえ取り入れているが、そこが生徒の知識や技術として身につけているかという点で課題が見られた。また、評価との結びつきについても、適切に評価されていないと感じている生徒が少なからずともいるということがアンケートからも読み取ることができた。
芸術	音楽Ⅰ：器楽、創作、鑑賞、座学など分野が多岐にわたっていて、それぞれの分野で生徒の理解につなげるよう授業づくりを行っていたが、一部生徒には学びの充足感や適切な評価になっていないように感じられたようだ。 書道Ⅰ：技能、表現と鑑賞とバランス良く授業の中で取り入れることができるよう意識したが、作品の鑑賞や生徒同士の活動をもう少し取る時間を作ることが必要だと感じた。
英語	C英Ⅰ：ワークブックだけではなく、教科書やクロムブックをうまく活用して授業を進めるべきであった。 学習内容の理解や課題を行う速度が異なるので、多様な生徒に対応できるよう観察していく必要があった。 論理表現：説明が多くなりがちなので、アクティビティやペアワークなどを取り入れることで「考えたり、活動したりする機会が多い授業」につながった。 授業の進め方を変えたことで混乱や不安を招いてしまった。
商業	評価について実技の評価について疑問を感じているところが多少あった。また、授業の進め方についても不得意な者からすると速いと感じているようだ。

	Q. アンケート結果を役立てることで、授業のどのような点を変えたり見直したりする予定か。
国語	ICTを活用した時間と書く時間のバランスを考えた授業を工夫していく必要があると感じた。全体としては生徒の評価はおおむね良好である。今後もICTを使用して考えたり、活動したりする時間を増やし、生徒の学力向上に向けて努力していきたい。
地歴公民	グループ学習やペア学習等主体的に課題に取り組むことが不足していた。授業プリントの工夫や改善を図り今まで以上に主体的な学習場面をつくりだしたい。授業の内容のどのようなポイントが評価に反映されているのかを、生徒にもう少し明確になるような活動内容やプリント等の構成を考えたい。
数学	習熟度に応じて課題は変わる。苦手な生徒に向けては、内容の切り口や伝え方を考えて苦手意識を取り除く授業を展開する。また現状に満足するのではなく、より高いレベルに挑戦したいという意欲を持たせるために提示する問題を工夫する。 生徒が主体的に活動する時間も充実させ、自身の力で解決するという達成感を味わえるよう教員からの働きかけ方も考えていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が問題に向き合うなど「わかった」ことを使う練習をする時間を（授業時間内でも以外でも）作れるような取組みについて模索する。 ・引き続き考える活動の増加、言語化によるわかった実感を得られる機会の増加に取り組む。
保健体育	要点やポイントを詳細に伝え、いくつか目標を設定することにより、生徒1人1人に合った課題を持ち、主体的に取り組めるように工夫する。また年次やクラスによって授業の進め方や取り組み方を考え、頑張りたいという意識が持てるように工夫する。そのような部分もしっかりと評価できるように評価基準を明確にしていく。前期からの課題になるが、教員間で連携を図りグループワークの充実を図っていく。
家庭科	実習や実験を行う際に、授業の狙いや課題を提示し、しっかりと振り返りを行うということを徹底して実施していく。また、評価基準も合わせて提示することで、生徒にも授業と評価の結びつきを示す。振り返り等でICTを活用し、負担を軽減しながら実施していきたい。
芸術	音楽Ⅰ：生徒の学びの実感につなげてあげたいと思う。効果的なICT機器の活用と音楽表現に必要なスキルを伸ばすための資料の提示、練習時間、演奏活動に必要な環境づくりを怠らず、授業の振り返りにおいてフォームなども活用させたい。 書道Ⅰ：ICTを活用して、動画で運筆方法や古典臨書を見て書くことで見やすいという意見があったので今後も継続していく。ICTで毎時間の振り返りさせたり、鑑賞させたりするなど工夫し、練習時間の確保もして、上達したことを実感できる授業作りをしていきたい。
英語	C英：デジタル教科書の導入等により効率化を図りたい。 説明をできるだけ簡潔に行い、活動を通して定着を図るべきだと感じた。 英語を使う楽しさを伝えられるよう授業内容を考えていきたい。 論理表現：ねらいやメリットを説明する必要があった。ただ、従来の知識伝達型ではなく、インタラクティブに活動する授業が望ましい。
商業	評価に関しては、年度初めのオリエンテーションで説明済であったが、この度具体的な例を多くあげて丁寧に説明した。全体に納得していると感じる。 全てにおいて不公平感が無いよう授業の進行には配慮しているが不得意な生徒に合わせ授業を進めることで大半の者が進行がストップするか、新たな課題を提供することで一層差がつくことになるためTTを活かして対応したいと考える。